

04. 高等学校教諭

熊本市立千原台高等学校

教諭 立花 健太郎

(平成28年度採用)



現在の担任、担当、校務分掌等

現在は3年生の担任をしています。今年度、初めて1年生から3年生までクラスを持ち上げることができ、とても感慨深いものがあります。クラスの目標を1年次は「挑戦」、2年次は「本気」、3年次は「感謝」と立て、3年間生徒と教室で生活を共にしました。そのなかで生徒から教わり、育てられることが多かったように感じています。3年間を振り返り、常に「感謝」の気持ちを忘れず、何事にも「本気」になって「挑戦」し続ければ、それぞれの目標を必ず達成することができるということを伝えてきました。そして私もこのことを胸に留め、さらに教師として成長し続けていくことを生徒と約束しました。

高等学校教諭の魅力

高校生は、子どもから大人へと成長する過程がよく見える時期であり、その姿を身近で見られることが大きな魅力だと思います。また、進路実現に向けて生徒の人生の大きな岐路に関わることができることや、卒業後は大人として対等に関係が続くところも魅力の一つだと思います。



私の失敗談(失敗から学んだこと)

ある日、生徒から「あのとき先生から言われた言葉がショックだった。」と告白されたことがあります。私はそのことを覚えておらず、その生徒から教師が発する言葉の影響や責任の重さに気づかされました。それからは「口から出た言葉には消しゴムはない。」と自分に言い聞かせ、生徒に真摯に思いやりをもって向き合うように心がけています。

私の働き方改革 work life valance

私の働き方改革は、生徒の成長に必要な関係者とのコミュニティの構築です。例えば、生徒の保護者と定期的に連絡を取り合い、必要であれば家庭訪問をすることで、生徒理解や本校の教育への理解と協力を得ることができます。また、大学や専門学校と連携を図り、外部講師を招聘した出張授業を導入することで、授業の活性化や専門分野への興味や関心を高めることができます。学校の外部人材を活用することで、生徒に幅広い視野から学びに向かう力や人間力を体得させることができます。

熊本市立学校教員を志願する方へのメッセージ

私は今年の4月で46歳。熊本市教員採用試験に合格したとき39歳でした。私の強みは、3度の大学経験や3年間の社会人経験などから得たネットワークやバイタリティです。商業教育をとおして、社会人基礎力を育み、地域や社会と連携・協働することで「社会が求める力」を体得させる授業を展開しています。多くのコミュニティのなかで新しいビジネスを創造し、このVUCAの時代に生徒が活躍できるように、これからも全力で生徒とともに学び続けていきます。

※この掲載内容は、令和4年1月時点の内容です。

